

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272500638		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム わたぼうし		
所在地	青森県上北郡おいらせ町山崎2592-7		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体の老人保健施設が実施している外出支援・リハビリ等の各サービスの他、夏祭り等の行事や勉強会等は、入居様と職員に利点が多くあります。 その甲斐もあり、平成25年度は職員2名が介護福祉士の資格を取得し、ホームの全職員が介護福祉士の資格を有しており、安心・安全を目標に、安楽のグループホームを目指し、入居者様、ご家族様、職員の三本柱で、地域に根づくホームづくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員でグループホームのあり方について学び、「安らぎのある生活環境」、「目を合わせ心が通う会話」を目標として、日々のケアに取り組んでいる。職員は笑顔で接し、利用者のペースや馴染みの関係を大切にしており、これまでの暮らしと急に変わらないように、地域や家族との関係を大切にしている。運営推進会議ではホームの現状報告、家族の相談事、認知症の学習会等、利用者・地域・職員相互にとって有意義な内容で行っており、ホームの運営に活かされている。 また、法人敷地内にホームが立地し、通所介護事業所や訪問看護ステーションが身近にあり、災害時や緊急時の連携が保たれ、安心感のあるサービスを提供している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体関連の病院受診を町内の病院へ変更 するご協力を得る際、全職員で地域密着型 サービスについて、再度勉強会を行った。	全職員で地域密着型サービスについて学習 し、「私達は、地域の方々と触れ合い、ゆったり と暮らし、安らぎのある生活環境を提供します」 をホームの理念として掲げている他、更に「目 を合わせ心が通う会話をしましょう」を接遇目 標として掲げている。管理者は職員一人ひとりに 理念を確認し、取り組みの方向性について 話し合い、職員は理念の意味を理解することで 自然と笑顔になり、日々のケアに取り組んでい る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	町内の病院を利用することで、待ち時間に 地域住民と会話をしたり、馴染みの先生の 説明により、入居者様は安心されている。 また、町内会場を利用して家族交流会を 行っており、食事をしながら、日頃悩んでい る事等をお互いに話し合っている。	近隣住民に、ホームに気軽に立ち寄ってい ただけように働きかけている他、隣接するデイ サービス利用者が立ち寄ったり、近隣の保育 園児や小学生の訪問がある。また、町内会の 行事や地区の敬老会に参加している他、ホー ム行事に招待し、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	運営推進会議で、高齢者に多い病気と内 服薬について勉強会を行ったり、ご家族様 と、グループホームでの過ごし方について、 ご本人を交えながら説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議に町役場職員、町内会、ご家 族様 職員が参加しており、身近な問題が 話題になっている。	利用者家族、町内会長、役場担当職員、ホー ム職員等の参加を得て、2ヶ月に1回、運営推 進会議を開催しており、ホームの現状や自己・ 外部評価結果を報告し、意見を出していただ いている。また、認知症や介護保険等をテーマ に掲げた学習会を設ける等、地域・家族・職員相 互に得るものがある機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	運営推進会議では各メンバーの担う重要な 役割を伝え、長期入居のご家族様も気楽に 意見を発表している。	町役場職員、地域包括センター職員が運営推 進会議に参加している他、自己及び外部評価 結果の報告や広報誌の配布等により、ホーム の現状を伝えている。また、地域の高齢者の 現状や制度変化等の情報を交換し、日頃から 連携が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」施設である。入居初期の24時間変化シートを活用し、不穏状態や活動に活気が見られない時は、職員間で連絡し合い、ご本人の思いに沿って行動に同行したり、お話をゆっくり傾聴している。	内部・外部研修を通して、身体拘束について学習しており、玄関や居室に施錠せず、出入りの自由を確保し、ドアの開閉は鈴音で察知できるように工夫している。外出傾向があれば、気が済むまで一緒に散歩したり、法人内施設の散策に付き添っており、個々に応じた声がけや見守りを行っている。また、やむを得ず拘束を行う場合に備え、家族への説明・同意書や経過記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会にて学び、職員の言動や介護力の不足な面は、職員一人の問題とせず、施設全体の問題と捉えて取り組み、職員は責務を意識しながら取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修や勉強会で権利擁護について学び、自らのキャリアアップにつなげている。また、職員は学んだ事を活かしながら、入居者様のつづきやきや生の声を大切にして、一人ひとりの個性を守り、入居者様が尊厳を持てるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、相談員を交え、見学と説明を十分に行っており、不明な点や他施設との相違等は、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月会議や、お便りを活用して誕生会等の招待をしたり、家族会で親睦を深めている。	支援する職員と利用者の間に垣根を作らず、笑顔で接する事を大切に、利用者・家族の思いを引き出している。毎月、個別のホーム便りを発行し、1ヶ月の出来事や行事を知らせている他、併せて受診状況、金銭管理状況も報告しており、便りは利用者の暮らしぶりが伝わる内容となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様と職員との関係だけではなく、家族様も含めて3者がスムーズに活性化することを目的に、伝達事項は明確・的確に伝え、安心のある支援ができるように努めている。	月1回の職員会議は日中に開催し、職員が参加しやすいように配慮している他、法人の各委員会に参加して、職員が意見を出せる場を確保している。職員から出された意見・要望は、実行に移すように努めている他、職員交換研修や職員のスキルアップのための支援体制を整えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制は、職員個々の都合に配慮している。急な勤務変更の場合は、職員同士の互助により調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画では、各職員の能力に配慮しながら、資格取得等による職員の向上心や意識づけを重視している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流会や食事会を考案したり、事業所間の職員交換研修により、全職員のレベルアップとなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始時は、入居前の状態を情報収集し、本人がホームに馴染めるように、ご家族様に面会の協力をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時は、職員から生活状況や心配事等を尋ね、ご家族様との関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のこれまでの経緯を聞かせていただき、馴染めない状況の場合は対応を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしているホームづくりは、入居者様の力をお借りしている事を、感謝の意味を込めて労いの言葉として伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月のお便りにて、誕生会や行事についてお知らせし、ご家族様にも参加をお願いしている。また、病院受診にも協力していただいている他、家族会にて、入居者様のご家族様に認知症に関する知識を情報提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人等との面会や外出の機会を設けている。センター方式にて、入居者様一人ひとりの生活歴を把握しながら、これまでの生活が継続されるように支援している。また、ご家族様への電話の支援、年賀状の発送等を行っている。	利用者の馴染みの人や場所を大切に、親戚・知人の来訪や電話の取り次ぎ、年賀状の郵送等を支援している。また、墓参りやドライブ等、家族の協力を得ながら、これまでの生活が継続されるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、入居様同士の会話等に耳を傾け、表情や態度、気分の変化等を観察しながら、職員が仲介役となっている。また、他のグループホームとの交流を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所、入院時の心情に配慮している。入院中の不安については、母体施設の相談員と連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人との会話や行動等の他、ご家族様からアドバイスをいただきながら、思いや意向等を把握している。全職員と情報交換し、内容を把握して、検討している。	「目を合わせ心が通う会話をしましょう」を接遇目標に掲げ、利用者への声がけを大切に、思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な場合には、日々の暮らしの中で、表情・態度から汲み取り、全職員で意見交換をしながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	軽作業でのタオルのたたみ方や服の干し方等で、一人ひとりの個性等を読み取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事後に居室で休み、次の食事まで休まれている方には、何度か話しかけて水分補給を促している。また、入居者様は好きな歌を聴いたり、DVDを観て楽しんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	行事がある時は、ご家族様にも出席していただき、面会時は普段の様子を伝えている。体調に異常が見られる場合は、ご家族様に電話連絡し、受診時には同席をお願いして、診断内容を一緒に伺っている。	センター方式や24時間シート等で、担当職員が情報をまとめ、全職員の意見を基に介護計画を作成している。きめ細かなモニタリングを行い、3ヶ月に1回見直している他、状態変化があれば随時見直し、利用者の現状を反映させた具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートや個別の記録等への記入の他、グループホーム会議にて職員間で情報を共有してカンファレンスを行い、全職員が同じ支援をできるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の病院への定期受診以外に、他科への受診をする際は、ご家族様へ受診の付き添いの協力を要請したり、受診時の外出支援を利用して、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティア等の協力を得て、入居者様は安全で豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診にて、必要があれば検査を行い、定期的に薬をいただいている。また、普段から体調が悪い時は受診している。	今年度から、法人の母体病院から地域の医療機関の受診へ移行し、地域住民や知人等と交流できる利点がある。定期受診の介助は職員で、その他は家族が受診介助しており、受診結果は家族と共有されている。また、医療連携体制を取り、定期的に訪問看護を利用し、利用者の状態変化に対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による来訪時には、入居者様の身体状況を伝え、一人ひとりのコミュニケーションとして、入居者様からの情報提供の場を設けている。また、急変時には併設の施設の看護師との連携や訪問看護師への連絡を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、現状や今後の支援について、病院関係者との情報交換を行っている。また、相談員の関わりを含め、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間でターミナルケアのマニュアルについて話し、現状に合った援助を行っている。受診時に、ご家族様や相談員、様々な機関が、主治医から同一の説明を受け、情報を提供していただいている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を明示し、家族に説明している。経管栄養等、医療的管理が必要な場合には、町立病院への入院を勧めている。また、利用者・家族の希望による自然経過での看取りの対応については、ホーム内・外での研修を重ね、検討していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の研修を受講したり、消防士の立会いの下、避難訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で委員会を設け、消防士が立会い、様々な想定の下で避難訓練を行っている。また、地域の消防団や町内との連携を図っている。	警察署・消防署の協力を得て、年2回、法人の総合訓練を行っている他、ホーム独自にも利用者と一緒に避難誘導訓練を行っている。防火扉やスプリンクラーを設置している他、消火器や避難路等は防災委員が中心となり、定期的に点検している。また、災害発生時に備え、発電機や食料・飲料水、リネン類、暖房器具等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事、入浴、排泄時等の介助は、入居者様の人格を尊重し、羞恥心に配慮しながら、安全に行っている。	羞恥心に配慮し、「自分がされて嫌な事」を意識しながら声がけを行っており、職員間で、対応等について頻回に話し合っている。また、守秘義務や個人情報の取り扱いについて、十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言葉に耳を傾け、表情を見逃さないように目配り、気配り、気づきを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりに合わせたケアを行うには、職員の人数によって難しい場合もあるものの、入居者様の行動や声を大切に、希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感や気温に合わせた衣類選びを一緒に行っている。自分の洗濯物を干して畳んでいただくことで、清潔な衣類を身につけている事を意識づけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生会には、季節感のある食材や誕生者のリクエストに答えた食事を楽しめるようにしている。	職員は利用者の希望や好みに配慮し、地域の食材を使った献立を作成している他、季節毎のレシピを用意して、時節の食事を提供している。利用者は、できる範囲で後片付け・食器拭き等を職員と一緒にいき、職員は見守りや介助をしながら共に食事をとり、利用者がそれぞれのペースで、ゆったりと食事を楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排泄量をチェックして、不足時には食間やおやつ時に補ったり、むせ込みのある方にはトロミ剤を使用して、安全に摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがい、食後の歯磨き、入れ歯の洗浄を、入居者様の習慣やレベルに合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を確認して、排泄の間隔や排泄量に注目し、自立に向けた支援を行っている。また、羞恥心に配慮して、戸の外で待機している。	排泄パターンを把握して事前誘導を心がけ、排泄の自立に向けた支援を行い、リハビリパンツから布パンツ使用に変化した利用者も多い。失敗時にはさりげなく速やかに対応しており、日中・夜間のオムツの対応が適切かどうか、見直しを頻回に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物による排便が困難な時は、必要に応じてコントロールしている。また、軽い運動を行い、腸への働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの好みのお湯の温度に調節している。更衣時や洗体時には、羞恥心に配慮している。	入浴は1対1で介助しており、利用者の希望を聞きながら、安全で楽しく入浴できるように配慮している。また、浴室入口の幅に合わせた車椅子を用意し、スムーズに入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ、午前、午後に休息の時間がある。夜間の不眠時には、温かいミルクや冷茶を提供したり、お話を聞く等して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に内服の変更がある時は、職員間で申し送り、ご家族様や入居様に説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を重んじており、毎日、新聞を見ることを日課にしている方には、ご本人に新聞を手渡している。また、嗜好品やいただいた物が沢山ある場合は入居者様で御馳走になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画にドライブやショッピングを取り入れている。ご家族様との外出希望も支援している。	天気の良い日は、ホーム周辺の公園に散歩や外気浴に出かけている他、花見や祭り、ドライブ等の年間行事も企画して、利用者の気分転換を図っている。また、利用者の希望が叶えられるように、家族にも協力を要請している他、外出の際は、個々の身体状況に合わせた対応に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームの金庫で預かっているが、行事やショッピングでは自由に使用しており、毎月、お便りで報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話の希望がある時は、相手の都合や時間にも配慮しながら、やり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量は、時間帯で調整している。また、「日射しが強い」「寒い」等の入居者様のお声に対応している。	広いホールにはソファや食卓が置かれ、利用者は思い思いの場所で、ゆったりと過ごされている。天窓からの自然光で明るく、床暖や加湿器、濡れタオル等で適切な温度・湿度が保たれている。また、廊下の壁には行事の楽しいスナップ写真が掲示されている。他、玄関には山の幸のアケビが飾られ、利用者が季節を感じることができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々、席替えを行い、入居者様の気分転換となっている。また、居心地の良い場所として、ホールのソファにて居眠りをしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が安心できるように家族写真を飾っている。また、馴染みの衣類ケースや小物を持ち込んでいる。	入居前からの愛用品や馴染みの物を持って来ていただけるように、家族に働きかけている。居室には使い慣れた筆筒や小さい机等が置かれ、家族の写真や作品を飾ったり、一人ひとりの個性や症状に合わせた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	軽作業やおしぼりづくり等をお手伝いしていただいている。また、トイレには、わかりやすく、案内の貼り紙をしている。		